

別紙 1-1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 Souphalak INTHAPHATHA

論 文 題 目

Factors associated with postpartum depression among women in
Vientiane Capital, Lao People's Democratic Republic: A
cross-sectional study

(ラオスの首都ビエンチャンにおける産後うつと相関する因子：横断研
究)

論文審査担当者 名古屋大学教授

主 査 委員 若井建志
名古屋大学教授

委員 八谷 寛
名古屋大学教授

委員 梶山広明
名古屋大学教授

指導教授 山本英子

論文審査の結果の要旨

別紙1-2

本研究はラオスの首都ビエンチャンにおける産後うつ病（スクリーニング陽性）の頻度と相関因子を調べることを目的として行った。2019年7月～9月に、4つの国立病院を産後健診で受診した産後6～8週の428名の女性を対象とした。平均年齢は28.1歳で、産後うつ病の割合は31.8%であった。産後うつ病と相関した因子は、意図しなかった妊娠（AOR=1.66, 95% CI 1.00-2.73, $P=0.049$ ）、分娩に対する満足度が低かったこと（AOR=1.85, 95% CI 1.00-3.43, $P=0.049$ ）、妊娠中にうつ症状があったことであった（AOR=3.99, 95% CI 2.35-6.77, $P<0.001$ ）。これらの結果より、産後うつ病を予防するためには妊娠中より精神面での健康状態を観察することや、家族計画や分娩サポートケアなどの医療を強化する必要があることが示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 2017年に行われた医療に関する全国調査によれば、WHOが推奨する4回の妊婦健診受診を行った女性は62.2%であった。しかし、17.9%は一度も妊婦健診を受診しておらず、19.3%の女性は1回のみを受診であった。本研究においては、対象者に妊婦健診受診回数を聞いていなかったため、妊婦健診の回数が産後うつ病と相関するかどうかはわからない。
2. 単変量および多変量ロジスティック解析よりうつ症状既往を除いた場合には、産後うつ病疑いと相関する因子は、低い分娩満足度、パートナーとの関係が不良、パートナーにうつ症状があることであった。
3. 産後うつ病の頻度は、都市部や自己記入票を使った場合には、農村部や診断評価よりも高くなるのが過去の研究より報告されている。本研究では首都という都市部で行っており、エディンバラ産後うつ病スクリーニング（EPDS）は自己記入方法であった。また、EPDSのカットオフ値を10点（以上）と低く設定したことも頻度が高くなった理由の一つかもしれない。EPDS陽性だからといって、精神科医による診断が産後うつ病であるとは限らないが、精神科専門医による診断や治療が必要な患者を一次医療施設におけるスクリーニングでもらさないためには、EPDSのカットオフ値を10点にすることが推奨されている。しかし、EPDSのラオス語版は精神科医による産後うつ病診断との相関性がまだ検証されていないため、今後はラオスの精神科専門医による検証を行う必要がある。

本研究は、ラオスにおける産後うつ病改善のために、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	Souphalak INTHAPHATHA
試験担当者	主査	若井建志	副査 ₁	八谷 寛
	副査 ₂	梶山広明	指導教授	山本英子
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 妊婦健診受診が産後うつ病を減らす要因になりえるかどうか調べているかどうか。2. 多変量解析において、妊娠前あるいは妊娠中にうつ病があった女性は除外したほうがよいのではないか。3. 本研究ではエディンバラ産後うつ病スクリーニングの合計スコアが10点以上をカットオフ値（スクリーニング陽性）としているが、日本では13点以上をカットオフ値としている。本研究では産後うつ病の割合が予想より高かった。予想より高くなった要因は何が考えられるか。 <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、医療行政学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				